

北海道から 秋田県大館市へ

氏名 若松 加奈

北海道拓北養護学校 → 秋田県立比内支援学校

(期間：平成27年4月1日～平成29年3月31日)



比内支援学校は

秋田の北部、大館市にある秋田県で最も伝統のある特別支援学校です。秋田杉に囲まれた自然豊かな場所にあり、小学生から高校生まで100人ほどが自宅から、または寄宿舎から通学しています。学校敷地内には、あきたこまちが実る田んぼを含む、広大な農場があり、地域の方の協力をいただきながら全校児童生徒で田植え、稲刈りに取り組みます。収穫したお米の一部は秋田名物きりたんぼ鍋にして美味しくいただきます。春は学校前のソメイヨシノの並木に桜が咲き、夏はピーマンやトマト、枝豆などの夏野菜が、秋は黄金色に実った稲穂が農場を彩ります。



1 派遣先の学力向上等の取組

地域に根ざし、地域で学び、地域に貢献する児童生徒

- 地域の特徴を生かした作業学習～農作業・木工作業
 - ・比内支援学校は「地域」とのつながりを最も重視しています。作業学習では中学部・高等部で農作業に取り組んでいます。高等部では、秋田県として重点的に取り組んでいる6次産業化を目指し、計画的に作付け、生育をし、収穫した作物をJAに納品するとともに、地域の菓子店等と連携して加工販売を行っています。秋田県が生産量日本一となった枝豆加工では、去年は「枝豆シフォンケーキ」を、今年は名物のハチ公や比内鶏をモチーフとして、地元高校や企業様と協力して「枝豆クッキー」を開発しました。
 - ・本物を学び、本物を作ることを重視し、木工班では、地域の諸先輩方に教えをいただき、地元大館の工芸品「曲げわっぱ」制作に取り組み、高い評価を受けています。
- 多様な販売方法
 - ・学校祭や販売会を地域の商業施設等で行っています。また、通年で町の販売所に置かせていただいています。地域の祭りで販売したりするほか、大館市のふるさと納税の返礼品として全国へ発送されており、生徒たちの働く意欲や自信の向上につながっています。



○ 地域の祭りへの参加

- ・大きなものだけでも年に5回ある地域の祭には、商品販売の他、よさこいの披露、ゲーム企画運営など、全校または学年の学習活動として計画的に参加しており、生徒に地域の方々に喜んでいただけたという達成感を味わわせる機会となるだけでなく、祭り自体の成功の一助となっており、地域での認知度や信頼も高いと感じました。

○ 地域の方に評価される多様な活動

- ・総合サービス班では、月一回程度地域の施設を借りて開くカフェでのおもてなしや、職業技能競技大会などでの入賞を目標に、作業学習で技能を磨いています。
- ・県内の職業教育フェアや研究会で、作業学習での活動発表を行うなど、学校の外に出る活動や、自分たちの取組を披露する場を多く設定することで精神面を高めています。



○ 他者への礼儀や、率先して活動する力を高める生徒指導

- ・挨拶や礼儀などの指導に重点を置き、児童生徒会を中心に態度面の学習や、挨拶運動を年に5回、取り組んでいます。儀式的行事等での礼法指導を積み重ねていることはもちろん、実社会で使えるように「お疲れ様です」と挨拶を統一しており、後輩たちはさわやかに挨拶する先輩の姿を見てあこがれを抱き、真似をしていく中で挨拶を身に付けていきます。
- ・行事や来客時には生徒が集まり、会場設営や受付案内活動などに取り組みます。高等部ともなると、集会終わりなどに、先生方の指示がなくてもパイプ椅子などを片付けるきびきびとした姿が見られます。

このような取組の中で生徒たちに働く意識や社会人としての心構えが高まり、高い就職率につながっていると感じました。

2 北海道に戻って実践したいこと

○ 社会科指導において

- ・地理分野の学習において、「自分の目で見た東北・秋田について」を教材化し、生徒たちの関心を引き出したい。
- ・地元、北海道の特色と東北地方など、地域の特色との比較などを取り入れ、地元への誇りや地域で生きていこうという意欲や関心を深めていきたい。

○ 生徒指導において

- ・挨拶のできる生徒を育てるために、その必要性を学習できるようにするとともに、私自身がすれ違う人々への挨拶を継続し、手本になる。
- ・LHRでは、予防的な生徒指導の方法として行われていた会話の手法を取り入れ、生徒の心のケアやコミュニケーション力を高めていきたい。

○ 地域との連携について

- ・北海道、札幌、あいの里の地域性を考慮し、学校としての地域への交わり方や、障害のある方々の暮らし方について研鑽し、生徒の自立と社会参加を目指せる地域教材について考えていきたい。